

試験・研究課題名

大課題名：資源管理技術の開発

小課題名：県産アユ種苗の有効活用に関する研究(H29～33)

担当者名：主任研究員 加地 弘一

| 評価項目 | 評価点 | 指摘事項 |
|---------------------------|----------|---|
| 1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ) | 5 / 5 | 山梨県内のアユの遊漁者数および遊漁収入は激減しており、各漁協は大変苦しい状況にある。種苗の質と放流効果を上げるための技術開発は、持続的な漁協経営において不可欠である。 |
| 2 課題の新規性、独創性 | 4 / 5 | アユ種苗の育成と放流技術の開発は、従来より取り組んできた課題であるが、集中放流や放流サイズの検討など、一定の新規性が認められる。 |
| 3 目的・内容の整合性、妥当性 | 4 / 5 | アユ漁業の回復という本来の目的を達成するには、種苗の育成技術向上のみでは限界がある。漁協との協力体制による継続的かつ抜本的な改善策を検討する必要だろう。 |
| 4 研究手法の的確性、 技術的可能性 | 5 / 5 | 予定している技術は、先行試験に基づいて検討されているものであり、技術的可能性は高い。漁協にも、放流方法や冷水病対策の周知と消毒の徹底を指導・普及してほしい。 |
| 5 成果の期待度 | 4 / 5 | アユの釣獲尾数の増加、漁期の延長および効果的な放流方法を検討することで、県内外からの遊漁者数の一定程度の増加は期待できるだろう。 |
| 総合評価 | 4 / 5 | 県内の内水面漁業の活性化と持続的経営のためには、本事業は重要であり、推進を願う。あわせて、アユを活かした地域振興や釣り人口増大、他のアウトドアと組み合わせたレクリエーションのための河川環境整備など、抜本的な釣り振興策も必要だろう。 |

「注」 評価点の目安

| 評価 点数 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|----------|----|------|----|------|----|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

漁場ごとに環境特性が異なることから、漁場にあった効果的な放流方法や種苗が選定できるよう、成果の活用については漁協と協議したい。冷水病などの魚病被害は漁協経営にも大きな影響を与えることから、対策について講習会などの機会を通じて関係者への指導を継続していく。なお、ご指摘のとおり、アユ漁業の復活と持続的発展のためには試験研究と平行して行政的な施策も必要であることから、花き農水産課や県漁連と連携をして釣り振興策に取り組む事としたい。